

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 福岡県大牟田市立大牟田小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒836-0851
福岡県大牟田市笹林町1-1-3

E-mail : oomuta-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 166名 女子 197名 合計 363名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

【3年生「地域安全マップをつくろう」】(防災)

(ねらい)

- ・ 地域の安全に関心を持ち、校区内の通学路や公園などの危険なところに着目し、課題を見出すことができる。
- ・ 地域の安全について、「入りやすい場所」「見えにくい場所」の観点から調べ、地域安全マップにまとめることができる。
- ・ 不審者や危険個所への危機感を持ち、自分たちが安全に暮らせるように願って、学んだことを生活に活かしていこうとする意欲を持つ。

(活動の実際)

- ・ G Tの話聞き、防災の観点から地域を見る目を養う。
- ・ 観点に沿って地域めぐりを行う。(写真、マップ記入)
- ・ グループで協力して、安全マップにまとめる。
※ 地域めぐりに際しては交通安全の上から、保護者に活動補助を依頼していたが、参加者はG Tの話聞くところから、マップにまとめるまでしっかり参加してくださり、親子で防災について学ぶよい機会になった。
- ・ できたマップを2年生に向けて発信する。

(G T等)

- ・ 大学の防災担当の先生、市安心安全課職員

【4年生「延命公園ウォッチング」】(環境)

(ねらい)

- ・ 校区にある延命公園の自然に関心を持ち、自分の課題を持つことができる。
- ・ 延命公園で見つけた植物、野鳥、昆虫や水辺の生き物などについて調べ、わかりやすくまとめることができる。
- ・ 一年間を通して延命公園の自然を追求し、自分たちの校区や大牟田市のよさを感じ、地域を愛する気持ちを育むことができる。

(活動の実際)

- ・ 春から夏にかけてと、秋から冬にかけての年2回、公園に行き、植物や鳥・虫などの観察をする。
- ・ 調べて分かったことや驚いたことなどを、グループごとに新聞やパンフレットにまとめる。
- ・ まとめたものをもとに授業参観日を利用して、保護者に向けて発信する。
※ 各G Tの専門的な話を聞くことができ、子どもたちの自然や生き物に対する関心は大いに高まり、ねらいに迫る活動を行うことができた。

(G T等)

- ・ 中央公民館担当者、生物愛好会、野鳥の会

【5年生「見つめよう！石炭の町 大牟田」】(世界遺産)

(ねらい)

- ・ 「石炭の町」といわれた大牟田市に関心を持ち、自分が調べたい課題を持つことができる。
- ・ 石炭や大牟田市の名所・建物・歴史などに興味を持ち、自分の追求方法

や追求内容の深まりを振り返るとともに、友達の活動についても、お互いにそのよさを認めたり、自分の活動に生かしたりすることができる。

- ・ 石炭や大牟田市の名所・建物・歴史などを追求することで、自分たちの地域のよさを感じ、郷土を愛する気持ちを持つことができる。

(活動の実際)

- ・ 自分たちの知っている「大牟田」についてイメージマップにまとめ、大牟田のことを調べようとする意欲を高める。
- ・ 校区近辺にある石炭に関する施設や史跡・遺跡を見学する。
 笹林公園の石炭記念碑 宮浦石炭公園 一浦町の囚人墓地
 三川坑炭塵爆発慰霊碑 石炭産業科学館
- ・ 課題ごとにグループ作りをし、調査活動を行う。
- ・ 調べたことをいろいろな方法でまとめ、学習発表会などで発信する。

(GT等)

- ・ 石炭産業科学館館長 ・ 本校職員

【6年生「平和な未来」】(平和・人権)

(ねらい)

- ・ 戦争に対する自分の見方・考え方を見つめたり、戦争の背景や人々の暮らしの概要をつかむことを通して、自己の課題を設定する。
- ・ 戦争や平和について調べたことをグループごとにまとめ、調べたことを通して考えたことを友達や下級生に伝えることができる。
- ・ 戦争について調べたり、実体験を聞いたりすることを通して、人々の思いや願いにふれ、平和な世の中の実現に向け、できることから始めようとするすることができる。

(活動の実際)

- ・ 戦争についてのイメージマップを作り、自己の見方・考え方を把握する。
- ・ 戦争の背景や人々の暮らしの概要をつかみ、学習課題を設定する。
- ・ 戦争による被害や人々の思いについて調べる。
- ・ 原爆の被害の実態を資料館や史跡によって調べたり、実体験を聞いたりする。

平和公園 如己堂 山里小学校 原爆落下中心地など

※ 修学旅行を利用して、今も残る原爆の傷跡をボランティアガイドの方から丁寧に説明してもらったり、被爆された方の生の声を聴いたりすることによって、より切実感を持って原爆の恐ろしさを感じることであった。

- ・ 調べたこと、考えたことを整理してまとめ、交流しあう。
- ・ 友達や下級生に平和な世の中に向けてのメッセージを発信する。

(GT等)

- ・ ボランティアガイドの方々 被爆体験者

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）